平成３１年度　大和中央高等学校　学校評価計画表

奈良県立大和中央高等学校（定時制）

教育目標	「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し行動できる生徒、情操豊かな心をもって自他の人格を尊重できる生徒、自ら進んで目標を定め、目標達成に向かって真剣に努力し、未来を切り開いていけるたくましさをもった生徒の育成を図る。	総合評価
運営方針	保護者や地域等との密接な連携を図りながら、すべての教職員が生徒理解を基盤とした温かみのある教育を展開し、三部制の特長を生かした各種の教育活動を行う。	

前年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
・主体的にあいさつできる生徒も少しずつ増えてきたが、まだ職員からの声掛け等が必要である。 ・日常の規範やモラルがしっかりと身についていない生徒が一部いることから、規範やモラルの大切さについて職員の共通理解のもと、あらゆる角度から指導していく必要がある。 ・進路に対する意識を高めるため進路ガイダンスをはじめ、進路に関わる情報をよりタイムリーに生徒に伝えていく。インターンシップ等を活用し、卒業時の進路未決定率の減少に繋げたい。 ・観点別評価に係る職員研修を年間複数回実施し評価のあり方等について浸透を図れた。 ・生徒がより相談しやすい窓口としてのＳＣ常駐は非常に有効であった。今後もＳＣやＳＳＷとの協力のもと関係機関と連携を図り、支援が必要な生徒への対応を進め、職員研修等で共通理解を深める。 ・部活動、生徒会、ボランティア活動の一層の活性化を図る。 ・生徒の健康管理に向けて、保護者の協力をより得られるよう工夫する必要がある。 ・校内美化に対する意識の高まりや、安全点検の定着・点検結果の改善等、施設管理に一定の成果が見られた。	(1)自立した社会人となるための基礎形成を図る。 (2)生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3)高校通級の研究校として研究取組の充実に努める。 (4)好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。 (5)生徒の安全を守る取組を充実させる。 (6)自他の生命を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。	・教育活動全体を通して、規範意識や倫理観を粘り強く指導し、ＴＰＯに即した行動がとれるよう指導に努める。 ・キャリア教育や進路ガイダンスを推進し、進路意識の向上を図るとともに、進路未決定者の減少に努める。 ・学習指導の工夫充実を図り、生徒の学習意欲の向上に努め、高校卒業という目標達成に向けた支援を行う。 ・支援を要する生徒の的確な把握に一層努め、教職員間の共通理解をより深めながら対応する。 ・教員全体がユニバーサルデザイン教育を意識した授業を展開できるように努める。 ・「地域と共にある学校づくり」を推進するなど、地域力に学びながら、社会性の育成に努める。 ・部活動や生徒会活動への参加を促し、協調性やコミュニケーション能力等の育成を図る。 ・生徒の一層の活躍の場となるよう、学校行事等の工夫、見直しを行う。 ・危機管理マニュアル等の整備を進め、地域の協力を得て学校安全体制づくりを推進する。 ・安全教育、防災教育においては、講演会等を積極的に行い、生徒への啓発を図る。 ・「命の大切さ」を考えさせる取組を講演会や集会等も活用しながら展開していく。

評価項目	具体目標	具体的方策・評価指数	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方法等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	・今年度から県下一斉に導入される校務システム「賢者」について、円滑に導入できるように全教務部員が一丸となって取り組んでいく。 ・昨年度より本格的に実施した観点別評価を今年度も引き続き実施していけるように、新着任の先生を中心に、説明や表計算ソフトのひな形の提供などを行っていく。 ・本年度より正式実施となる通級指導に関して、時間割の作成など教務として協力していく。 ・新教育課程を編成していくための具体的な検討を各教科に始めてもらえるように、情報提供などを行うなどの取り組みを開始する。	・前期の中間考査までの欠時数の入力を「賢者」を使って全教科担任にしてもらえるよう準備を整える。 ・各定期考査の時期に、マニュアルを作成し、各先生に配布する。 ・(時間割作成はもう終わったので)成績会議等の資料でも教務として協力していく。 ・夏の教育研究集会も踏まえて、各教科に検討をしてもらったものを年度末にとりまとめる。				
生徒指導部	・学校生活の「要」を授業に置き、欠席・遅刻・早退の減少を図る。 ・あいさつ・言葉遣い等の基本的生活習慣の確立を目指す。 ・「いじめ防止対策プロジェクトチーム」を中心組織に据え、生徒一人ひとりに目を向け、少しの変化にも気づくように努めるとともに、さまざまな状況に応じた認知を行う。また、職員の研修を充実させる。 ・生徒の生命を守る取組を推進する。 ・人権文化部と連携し、生徒個々に必要な支援に取り組む。 ・生徒の部活動参加を促進する。	・授業時のあいさつ習慣を身に付けさせるなど、授業規律の確立に向け授業担当者が徹底して指導出来るよう教職員全員で取り組む。 ・校内巡視等を通して生徒理解に努め、授業に出ない生徒への声掛け等を徹底する。 ・人権意識の高揚と豊かな心の育成を目指しながらも個々の生徒の状況に応じた対応を行う。また、教職員の気付く力を高める研修を実施する。 ・命の大切さを考えさせる講演会（薬物乱用防止・自殺防止等）を実施する。 ・校内巡視や下校指導を常時行い、不審者への予防も兼ねる。下校指導では地域住民からも生徒の状況を尋ね、情報収集の手段とする。 ・自転車通学、原付通学ともに事故ゼロを目指して通学生集会、実技講習会を定期的に開催する。 ・生徒会活動に多くの生徒が参加できるように、全生徒に対して生徒会活動や部活動の広報を積極的に行う。また、地域との連携を図る一助とする。				
進路指導部	・進路ガイダンスや進路講演会を通じ、キャリア学習を充実させる。 ・生徒個々の目標実現のため、必要な指導と支援を充実させる。 ・進路希望調査や面談を通し、自己の進路について考えさせる。	・日々の学校生活や面接指導を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・「進路だより」「進路のしおり」をさらに充実させ、進路情報の提供と進路意識の向上を図る。 ・「進路に関する相談・指導記録カード」をもとに、進路指導を充実させる。 ・進学講習や就職講習を実施し、進路実現を支援する。 ・各種問題集、解説書、ガイドブック等の進路貸し出し図書の充実を図る。				
健康・環境部	・健康・安全の自己管理を推進し、健康的な生活習慣を身に付けさせる。 ・校内美化に努めるなど、生徒の学習環境の整備を図る。 ・環境安全管理に努める。 ・生徒の生命を守るための教職員研修を実施する。	・健康診断の結果や治療勧告書を確実に保護者へ届け、医療機関での受診を促す。 ・保健だよりや食生活レターを月１回発行し、ＨＲや面談で活用し、自己管理を徹底させる。 ・毎時の教室整備整頓を定着させる。 ・総合的な学習の取組として、月１回程度の清掃活動を実施する。 ・部集会等の節目日の清掃活動を実施する。 ・環境安全点検表に基づき、月１回安全点検を実施し、生徒が安全に学校生活を送れるよう整備する。 ・救急救命（アレルギー対応含む）研修を継続、計画実施する				
人権・文化部	・通級の取組を進めるとともに、校内支援体制の一層の充実を図る。 ・人権学習を通して、生徒に身の回りの不合理、矛盾に気付かせる。 ・より充実した拡大文化祭の企画・運営に努める。	・通級の本格実施に並行して実態把握の方法、支援、指導の計画の充実に努める。また、ユニバーサルデザイン等、全生徒に還元できる支援方法を構築していく。 ・教員の研修の場や情報をより多く提供するとともに、生徒が納得、共感できる授業や教材づくりに努める。 ・企画、準備に力を入れ、明確な進行、スケジュールのもと行う。				
総務部	・昨年度までの反省事項や課題を踏まえ、式典やその他の企画行事等を円滑に進める。 ・新形式になったｉボード、学校ホームページの運営を軌道に乗せる。 ・後援会・同窓会・学校評議員との連携をさらに深め、生徒が学びやすい環境づくりを行う。 ・学校経営計画をはじめとする出版物の発行を円滑に行う。	・着任式、始業式、入学式、卒業式、離任式等の式典や集中総合講座を見直し、より良い式典や行事になるよう努める。 ・ｉボード、学校ホームページの更新数を昨年同様になるよう努める。 ・後援会・同窓会・学校評議員との連携をさらに深め、定期総会や学校行事をはじめとする諸活動への参加・協力体制を築く。 ・学校経営計画、学校要覧、学校生活ガイドブック、入学のしおり、学校案内等の出版物について、内容の見直しとスムーズな発行に努める。				
Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ部	・基本的な生活習慣の定着を図るとともに、生徒と教員との信頼関係を築く。 ・生徒の状況を把握し、部（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を越えて生徒理解に努める。 ・進路に対する確かな意識を持たせ、進路実現のために行動できる生徒を育てる。	・教職員自らが、授業だけでなくあらゆる場面でのあいさつや声掛けを心がける。 ・部主任間で適時生徒の情報共有を行い、大和中央高校のすべての生徒の状況がわかるようにする。 ・上級生になるほど正しい言葉遣いができるようになることが、自身の進路実現に繋がることを理解させる。				
事務部	・学校施設の経年による劣化状況を把握し、施設の維持管理に努める。 ・外部からの来訪者を確認し、適切に対応するとともに、不審者の識別を徹底する。 ・予算の効率的、適正な執行に努める。	・日常的に施設点検を行い、破損個所の早期発見・修繕に努める。 ・誰が、何の目的で学校に出入りしているのか把握し、目的に応じた適切な出入管理を行う。 ・予算執行に際して事業の優先順位を適切に判断するとともに、経費の節減合理化に努める。				